

- 本県を代表するたけのこ産地である徳島県阿南市は、高齢化等により、生産量の減少、品質低下、放任竹林の増加等、厳しい状況にあるため、**適正な栽培管理や放任竹林の再生、伐採竹の有効利用等、竹をキーワードに産地の復興支援策を関係機関と協議。**
- 栽培や竹林再生の専門家による栽培講習会、実演会、研修会を開催。**たけのこ生産者への技術情報を発信、また省力的な土壌管理(酸度矯正、ケイ酸補給)技術の実証展示園を設置。**
- その結果、放任竹林を**地域初の観光たけのこ園として開設。省力的な土壌管理(酸度矯正、ケイ酸補給)技術を開発。**

## 具体的な成果

## 普及指導員の活動

## 1 たけのこ栽培管理講習会の開催

- 専門家による親竹管理、うら止め技術の講習 **講習会受講者95名**  
**この10年で最も多い受講者数**



栽培管理講演会



うら止め技術実演講習会

平成26～27年度

- たけのこ産地の課題、問題点の抽出 **栽培管理状況や土壌状況の実態調査**
- 栽培管理、土壌管理が十分できていない現状を把握。
- **土壌管理講習会を開催。**  
**土壌管理の重要性を生産者に周知し、土壌管理改善実証展示園を設置**

平成28年

- 県外から専門化を招いて、**親竹管理、うら止め技術習得のための栽培管理講演会、実演会を開催。**
- 栽培支援、環境整備、放任竹林対策、伐採竹の有効活用等、**竹に関連した活動をする関係機関で構成される「けんなん・たけのこアカデミー」を設立。**

平成29年～

- **「けんなん・たけのこアカデミー」の本格的な活動開始。**

## 普及指導員だからできたこと

・栽培管理や土壌管理等の専門技術を活かして**たけのこ産地が抱える課題を抽出**することで、産地の復興支援に向けての課題解決の方向性を明らかにした。

・普及指導員が有するコーディネート機能を発揮することで、栽培だけでなく、**多分野に渡って活動**をしている関係機関で構成される、**新たな活動集団設立の道筋をつける**ことができた。

## 2 放任竹林の復活支援

- 専門家による放任竹林の管理指導により**当該地域初の観光たけのこ園を開設**



放任竹林管理講習会



竹チッパー処理実演会

## 3 栽培管理の省力化技術の開発支援

- 土壌管理実証展示園の設置(3カ所)  
**ケイカルよりも7割も軽い酸度矯正資材**  
**降雨でも流亡しにくいケイ酸資材**



軽量酸度矯正資材



実証園現地検討会

徳島県

## たけのこ産地の復興支援の取組み

活動期間：平成26年度～（継続中）

### 1. 取組の背景

徳島県南部の阿南市は本県を代表するたけのこ産地である。

関西市場向けの正月用の早堀りや3～5月の総堀りたけのこは本地域経済の一翼を担ってきた。

しかしながら近年は、生産者の高齢化や後継者不足により、生産量の減少、品質の低下、放任竹林の増加等、厳しい状況にある。

そこで、高度技術支援課では地元の阿南農業支援センターと協力しながらたけのこ産地の復興支援のための対策について、県の林業や環境部局、市、JA、生産者部会等の関係機関と検討した。

### 2. 活動内容（詳細）

#### (1) 平成26年度

たけのこ栽培の見地から、産地の課題、問題点を抽出、把握するため生産者部会の協力を得て、聞き取り調査による栽培管理状況や土壌診断による土壌の実態調査を実施した。

その結果、①たけのこ栽培独特の親竹管理（不要な竹を伐採して高品質たけのこの生産量を増やす）ができていない、②土壌診断の結果、長期に渡ってケイカルなどの土壌改良資材が施用されておらず、土壌の酸性化が進んでいることが明らかとなった。

①については、女性生産者が適正な親竹管理の方法を知らない、

②については、ケイカルの施用の必要性は認識しているものの、傾斜地での施肥作業の重労働があい路となっていること、  
が課題として抽出できた。

適正な土壌管理の重要性を周知するため、土壌肥料担当の革新支援専門員が講師となり、たけのこ園の土壌管理講習会を開催し、自身のたけのこ園の土壌実態を把握して適正な土壌管理を実践することの重要性を解説した。

また、農協系の肥料生産業者を招いて、1袋当たりの重さが従来の肥料（20kg）と比較して軽い（15kg）省力的なたけのこ専用肥料の紹介を行った。

#### (2) 平成27年度

阿南市新野町、福井町、椿町の3カ所に土壌管理実証展示圃を設置した。

表1 展示圃の設置内容（3年間設置）

展示区名	施用資材	施用量 (kg/10a)
無処理区	無 施 用	
ケイカル区(慣行)	珪酸カルシウム	200 (毎年)
転炉砕区	珪酸カルシウム+炭酸カルシウム *1	600 (3年分)
珪酸ナトリウム区	珪酸ナトリウム *2	80 (毎年)

- \*1 転炉碎と苦土石灰の混合資材で、土壤表面に吸着されて流亡しにくい  
(商品名：防散副産苦土石灰)
- \*2 廃ガラスを高温熔融させた粒径 10~30mm、比重 0.3 の軽量多孔質資材 (商品名：  
ネクストワン) でガラスの成分である珪酸ナトリウムを主成分とする

### (3) 平成 28 年度

適正な親竹管理 (不要な竹を伐採して陽当たりを良くし、高品質たけのこの増収を図る) の方法やうら止め (竹の先端を切ってたけのこ収穫時期を早めたり、強風等による竹の倒伏を軽減する) の方法、放任竹林管理について、福岡県から専門家を招き、たけのこ栽培管理講演会、実演会を開催した。

竹をキーワードに、たけのこの栽培管理、経営改善等の生産部門、放任竹林対策等の環境部門、伐採竹の有効活用等の資源利用部門等々、多方面に渡る活動を支援している関係機関で構成される「たけのこ再生クラスター (仮称)」設立に向けた検討会を開催した。

## 3. 具体的な成果 (詳細)

### ◎土壤管理講習会 (27.2.6)

12名の生産者が地元の阿南農業支援センターに土壤診断を依頼し、土壤診断結果に基づいて土壤改良を実践。土壤管理の重要性が啓発できた。

### ◎土壤管理実証展示圃 (27.4.9)

防散性転炉碎の土壤酸度矯正及びたけのこへのケイ酸補給効果を確認。現在長期的な効果の持続性を検証中。



ケイカル施用区

防散転炉碎区  
資材施用 1 年後の様子

珪酸ナトリウム区

生産者にとってケイカルは痕跡が確認できないので、土壤に施用されたのか、流亡したのか不安があるが、防散転炉碎やケイ酸ナトリウムは資材施用の痕跡が確認できる。

### ◎竹チッパー実演会 (28.2.17)

県の林業部局の協力を得て、放任竹林の再生に不可欠な伐採竹の処理を省力的にできる竹チッパーの実演会を開催した。

### ◎たけのこ栽培講演会 (28.10.20~21)

過去 10 年間で最多の 95 名の生産者が参加した。

### ◎観光たけのこ園の開設 (29.4.8)

栽培管理講習会で学んだ放任竹林の再生管理技術を活かして、平成 27

年4月に当該地域初の観光たけのこ園を開設した。

◎「けんなん・たけのこアカデミー」の設立 (28.10.20)

平成29年度に阿南農業支援センターがコーディネートして、JA、市役所、県の農業、林業、環境の各部門からなる「けんなん・たけのこアカデミー」を設立した。

広く門戸を開放し、たけのこ生産者、放任竹林再生NPO法人、木質バイオマス関連業者、大学関係者等をターゲットに会員を募集する。

平成29年度から本格的な活動を開始する。

◎竹林再生実証展示圃の設置

平成29年度から放任竹林を皆伐した後の竹林の再生を実証する展示圃の設置を計画。

#### 4. 農家等からの評価・コメント

- ・施肥管理の省力化技術の開発を望む。(たけのこ生産者A氏)
- ・土壌診断の結果、自分の園が酸性化していることがわかった。毎年土壌診断を実施して改善効果を確認したい。(たけのこ生産者B氏)
- ・ケイ酸補給効果の実証展示圃は他県では実施していないので、成果を期待している。(講演会講師、福岡県竹林利活用アドバイザー 野中重之氏)

#### 5. 普及指導員のコメント

特に女性の生産者グループが土壌診断結果に基づく土壌管理の重要性を認識し、栽培管理について熱心に勉強、実践している。

(高度技術支援課・革新支援専門員・黒田康文)

#### 6. 現状・今後の展開等

「けんなん・たけのこアカデミー」を中心に、竹林に関する多くの活動を通じて、竹林やたけのこ産地の復興支援をコーディネートし、地域経済の活性化を図る。